

平成22年度「新目標チャレンジ」表彰課所

■選定・評価の考え方

- ・新目標チャレンジに積極的に取り組み、顕著な成果を収めた課所を知事表彰
- ・評価の視点：①目標設定の適切性、②目標達成に向けた組織(職員)の努力、③目標達成度(成果)

■選定の流れ

- ・各部局から、「施策推進の部」「県民サービス・事務改善の部」ごとに1～4課所を順位を付して総務部へ推薦
- ・推薦課所の中から、審査委員会(行革・分権室長、総務部次長、企画部次長等で構成)の審査を経て表彰候補を選定

■表彰課所数

部 門	賞	平成22年度	平成21年度	平成20年度	平成19年度
施策推進の部	優 秀	2	2	3	4
	努 力	6	5	6	2
県民サービス・事務改善の部	優 秀	1	1	1	2
	努 力	2	1	2	3
計		11	9	12	11

《施策推進の部》

【優秀賞】(産業立地推進東京本部, 港湾課)

新規定期コンテナ航路の開設(鹿島港における中国・韓国定期コンテナ航路の開設)

目 標 数 値 等	実 績
新規定期コンテナ航路の開設	1 航路開設 (H23. 2月開設)
(表彰理由)	
<p>○ 産業立地推進東京本部と港湾課が連携・協力し、160回もの船社への寄港要請や、580回もの荷主企業等への利用要請などのポートセールスに一体となって積極的に取り組み、その結果、9年ぶりに外航定期コンテナ航路が誘致できた成果は顕著。</p> <p>○ 鹿島港周辺に立地する企業からの強い要望事項でもあり、今回の外航定期コンテナ航路の開設は、本県の物流の効率化に資するとともに、鹿島臨海コンビナートの発展といった効果の大きな取組。</p>	

【優秀賞】(空港対策課) 茨城空港の利活用促進

目 標 数 値 等	実 績
開港から1年間(H22. 3. 11～H23. 3. 10)で	
①茨城空港旅客ターミナルビル来場者数 : <u>100万人</u>	<u>89万人</u>
②イベント開催日数: <u>延べ120日</u>	<u>延べ478日</u> (H23. 2月末現在)
③会議室使用団体数: <u>延べ250団体</u>	<u>延べ695団体</u> (H23. 2月末現在)
(表彰理由)	
<p>○ イベント開催日数120日を目標に多くの機関と調整を図り、目標を大きく上回る400日を超えるイベント開催が実現できたことは、職員の努力の成果。</p> <p>○ 来場者数は目標にわずかながら届かないものの、開港当時には想像できないほどの賑わいを創り出すなど、茨城空港の認知度向上に大きく貢献しており、さらなる茨城空港の利活用促進のみでなく、周辺地域の活性化も期待できる取組。</p>	

【努力賞】（環境政策課）レジ袋無料配布中止に取り組む業種の拡大による店舗数の増

目 標 数 値 等	実 績
業種の拡大により増加する店舗数 ： <u>130</u> 店舗	<u>295</u> 店舗
(表彰理由) ○ 業種の拡大にあたり、対象とした各業種の課題をきちんと分析するなど、効果があがる選定に加え、関係団体を延べ50回以上訪問し丁寧に参加を働きかけるなどの職員の努力により、参加店舗数で全国第1位を獲得した成果は大きい。 ○ これまでの取り組みと併せて様々な手法で周知を図り、県民からも激励をいただくなど、県民意識の高まりも見られ、今後さらなる取組効果が期待できる。	

【努力賞】（産業政策課）県内中小企業の成長分野進出支援

目 標 数 値 等	実 績
①中小企業を集めた協議会の会員数 ： <u>200</u> 社	<u>285</u> 社 (H23. 3. 7現在)
②大手企業への技術提案件数： <u>12</u> 社	<u>29</u> 社 (H23. 3. 7現在)
(表彰理由) ○ 職員が各種経済団体の総会等に出向いた説明や企業訪問など、加入促進に積極的に取り組み、協議会設立にあたり目標会員数を達成できたことは高く評価。 ○ 参加企業が成長分野において技術提案ができるよう、講演会や見学会の開催、個別企業指導の実施など、中小企業と大手企業の交流促進も進めており、今後さらなる中小企業の活性化が期待できる。	

【努力賞】（観光物産課）本県への外国人旅行者誘客促進

目 標 数 値 等	実 績
本県への外国人旅行者数： <u>170</u> 千人 [H21：115千人]	<u>164</u> 千人 (本県推計値)
(表彰理由) ○ ソウルに県観光案内デスクを開設するなど情報発信力の強化や、韓国での商談会参加などツアー造成の働きかけ、県内受入体制の整備など様々な取り組みを展開した職員の努力が、昨年より大幅な外国人旅行者増加につながっているものと評価。 ○ 目標にはわずかながら達しなかったものの、茨城空港の賑わい創出や外国での茨城県の知名度向上、観光振興に貢献した成果の大きい取組。	

【努力賞】（県央農林事務所 企画調整部門）
飼料用米作付面積拡大による水田利活用の促進

目 標 数 値 等	実 績
①飼料用米作付面積： <u>80ha</u> ②モデルとなる飼料用米の新流通システム構築： <u>3パターン</u>	① <u>151ha</u> ② <u>3パターン構築</u>
(表彰理由) ○ 各部門を超えたプロジェクトチームを立ち上げるなど所属全体で連携し、事業を効果的に推進することにより目標達成した成果は大きい。 ○ また、安定供給に向け、流通システムを3パターン構築するなど、システムの定着にも取り組み、今後、県内他の地域への波及効果も期待できる。	

【努力賞】（漁政課、水産試験場）
水産試験場開発の新技术を用いた生食用凍結シラスの普及

目 標 数 値 等	実 績
生食用凍結シラスを活用したメニュー等提供店舗数： <u>13店舗</u>	<u>15店舗</u>
(表彰理由) ○ シラスの生食用流通を可能とする技術開発が進んだことから、この普及のため試験研究機関、普及機関、行政が一体となって生産現場への技術の普及や販路確保に努め、目標を上回る販売店舗数を確保できたことは大きな成果。 ○ また、消費者へのPRにも取り組んでおり、今後さらなる普及により、漁業者の所得向上につながるほか、茨城の特産物として注目されることも期待できる。	

【努力賞】（特別支援教育課）
学校公開週間における来校者増による特別支援学校の理解啓発
（みんなで知ろう、特別支援学校2,000人キャンペーン）

目 標 数 値 等	実 績
学校公開週間の来校者： <u>2,000人</u> [H21：1,089人]	<u>4,220人</u>
(表彰理由) ○ 目標の達成には各学校の努力もあるが、これを引き出すための学校への働きかけや、学校の努力を来校者増加につなげるための開催方法の工夫など本庁の取り組みは大きい。 ○ 今年度初めて全学校で本格的なチラシを作成するなど工夫を凝らしながら取り組み、目標を大きく上回って来校者を増加させ、特に、地域住民が前年度の9倍も来校するなど、特別支援学校の理解啓発に大きな効果。	

《県民サービス・事務改善の部》

【優秀賞】（水戸土木事務所） 物品調達におけるオープンカウンター（公募型見積合わせ）の試行

目 標 数 値 等	実 績
①試行（3ヶ月間）件数： <u>6件</u>	<u>31件</u>
②平均参加者： <u>2.4者/件</u>	<u>4.1者/件</u>
（表彰理由） ○ 所内で検討チームを組織し、入札者への適切な周知に努めるなど、前例のないオープンカウンターに積極的に取り組み、目標を達成した職員の努力を高く評価。 ○ また、予定価格に対する決定額の割合を昨年度より8ポイント低下させるなど、経費削減効果をあげた点も評価。	

【努力賞】（県立医療大学）県立医療大学付属病院の病床稼働率向上

目 標 数 値 等	実 績
病床稼働率： <u>75%</u> [H21: 71%]	<u>76%</u> （平成22年度末見込み） [12月末現在：76.1%]
（表彰理由） ○ 病院内各部門で協議し、それぞれに取組項目を掲げるなど、病院内で課題意識を共有し、病院全体で取り組んだ点を高く評価。 ○ 特に、各病棟が連携した入院患者ニーズへの柔軟な対応や、地域医療連携室と各病棟が連携した空床情報の周辺病院への適時提供などの取組が、受入患者の拡大に寄与しており、大きな収入増加を実現。	

【努力賞】（会計第一課） 効率的な資金管理による差引運用益（運用利子－借入利子）の最大化

目 標 数 値 等	実 績
差引運用益： <u>263百万円</u>	<u>393百万円</u> （平成22年度末見込み）
（表彰理由） ○ 財政状況が厳しい中で、効率的な資金運用による財政負担の軽減は重要な取組であり、職員間の連携を密に金融機関等との各種調整をはじめ、積極的に取り組んだ努力を評価。 ○ また、差引運用益のうち21百万円は新たな手法を取り入れたことによるものであり、工夫と努力をしながら、目標を達成した成果は大きい。	